

V. 技術者養成

1. 技術人材養成事業

1-1 一般研修事業

〔目的〕新製品の開発や生産技術の向上を図るため、企業の技術者や後継者を受け入れて研修する。

研修内容	研修期間	氏名	所属事業所名	担当者
圧力鋳込み	平成16年10月12日～10月29日	宮田 純	(有)広仙窯	小林孝幸
鋳込み、石膏型、たたら成形	平成16年11月16日～12月9日	廣田和樹	(株)和山	
	平成16年11月17日～12月10日	橋本和也	昭和陶器(株)	
鋳込み成形	平成16年7月1日	橋本和也	昭和陶器(株)	
		小島啓子	雲仙製磁(株)	
	平成16年7月1日～7月30日	宮田 純	(有)広仙窯	
	平成16年7月7日～8月13日	樋渡常司	(有)藍染窯	
	平成16年7月20日～7月23日	谷口禎二	(株)永泉	
		太田一彦	重山陶器(株)	
	平成16年7月26日～7月30日	西浦暢博	(有)正光窯	
	平成16年10月12日～11月1日	小島啓子	雲仙製磁(株)	
ガス吸着測定	平成16年7月12日	河辺豊太郎	伸和コントロールズ(株)	狩野伸自
蛍光X線分析	平成16年4月16日～4月23日	飯野 悟	長崎東芝セラミックス(株)	木須一正
石膏、鋳込み成形	平成16年10月12日～10月29日	藤田隆彦	(有)ふじた陶芸	兼石哲也 小林孝幸 久田松学
	平成16年10月28日～12月20日	一瀬龍宏	(株)一龍陶苑	
		江添圭介	(有)一誠陶器	
	平成16年11月18日～12月10日	木下光春	聖栄陶器(有)	
	平成16年11月8日～12月10日	谷口禎二	(株)永泉	
		西浦暢博	(有)正光窯	
		藤田隆彦	(有)ふじた陶芸	
		宮田 純	(有)広仙窯	
	平成16年7月26日～7月28日	木村香菜子	波佐見町	
		村松 愛	波佐見町	

研 修 内 容	研 修 期 間	氏 名	所 属 事 業 所 名	担 当 者
石膏型成形	平成16年5月31日～6月4日	飯倉 崇	有田窯業大学校	久田松学
		一瀬龍宏	(株)一龍陶苑	
		江添圭介	(有)一誠陶器	
		太田一彦	重山陶器(株)	
		太田 聖	(株)西山	
		太田浩司	(有)光玉陶苑	
		片山賢児	(有)和泉製陶所	
		木下光春	聖栄陶器(有)	
		黒崎高春	(株)林千窯	
		小島啓子	雲仙製磁(株)	
		瀬井和文	(株)清山	
		谷口禎二	(株)永泉	
		西浦暢博	(有)正光窯	
		橋本和也	昭和陶器(株)	
		廣田和樹	(株)和山	
		樋渡常司	(有)藍染窯	
		藤田隆彦	(有)ふじた陶芸	
		松尾利幸	(有)松幸陶芸	
		宮田 純	(有)広仙窯	
山下洋二	(有)山下陶苑			
	平成16年8月3日～9月1日	森永英一郎	(有)ウラベ	
	平成16年8月9日～9月8日	木下博昭	(有)菊祥陶器	
	平成16年11月15日～12月10日	太田浩司	(有)光玉陶苑	兼石哲也
	平成17年3月7日～3月24日	山口俊二	(株)館山堂	久田松学
石膏成形、焼成技術	平成16年10月25日～ 平成17年3月31日	橋本弘道	橋本圧力成形	久田松学 山口英次
走査型電子顕微鏡の操作	平成17年2月28日	千々岩清彦	共立エレクトクス(株)	吉田英樹
たたら成形	平成16年11月15日～12月10日	瀬井和文	(株)清山	小林孝幸
	平成16年11月16日～12月10日	樋渡常司	(有)藍染窯	

研 修 内 容	研 修 期 間	氏 名	所 属 事 業 所 名	担 当 者
たたら成形、鑄込み	平成16年11月15日～12月10日	太田 聖	(株)西山	小林孝幸
		太田一彦	重山陶器(株)	
たたら成形、石膏型	平成16年11月16日～12月10日	片山賢児	(有)和泉製陶所	
炭化物の比表面積	平成16年 7 月22日	下川 修	島原産業(株)	狩野伸自
		高木清光	島原産業(株)	
転写技術	平成16年11月15日～12月10日	小島啓子	雲仙製磁(株)	兼石哲也
陶磁器製造	平成16年 4 月～17年 3 月	中尾善之	(株)中善	大串邦男

1-2 セミナー事業

〔目的〕 技術情報、デザイン情報の迅速な提供、及び技術革新に対応できる意識改革を図るためのセミナー等を実施する。

(1)

テ ー マ	特許電子図書館検索セミナー		
期 日	平成16年 8 月27日		
概 要	特許制度の概要について説明するとともに、特許庁HPの特許電子図書館を活用した、先願調査の方法について実習した。		
講 師	川添早苗（財団法人長崎県産業振興財団インストラクター）		
受 講 者	10名	担 当 者	研究開発科 高松宏行

(2)

テ ー マ	常温セラミック膜形成技術（エアロゾルデポジション法）		
期 日	平成16年11月 5 日		
概 要	セラミック微粒子を常温で、しかも高速で基材上に吹き付け製膜するエアロゾルデポジション法について講演。本講演では、数 μm ～数十 μm といった膜厚のセラミックを直接基材上に形成できる新しいセラミック膜形成技術の概要とその応用化について解説。		
講 師	清原 正勝（東陶機器株式会社 総合研究所 材料技術研究部 セラミック研究グループ）		
受 講 者	11名	担 当 者	研究開発科 狩野伸自

(3)

テ	ー	マ	マイナスイオンと抱える問題				
期		日	平成17年3月9日				
概		要	マイナスイオンとその応用製品の現況と抱える問題点および今後の活用法について概説。				
講		師	根本政春（ユニバーサル企画）				
受	講	者	45名（(4)と共催）	担	当	者	研究開発科 永石雅基

(4)

テ	ー	マ	人体に関わる遠赤外線技術				
期		日	平成17年3月9日				
概		要	遠赤外線の基礎知識とこれまでにを行った赤外線放射体の研究成果紹介および人体との関係について概説。				
講		師	高嶋廣夫（元工業技術院名古屋工業技術研究所 工学博士）				
受	講	者	45名（(3)と共催）	担	当	者	研究開発科 吉田英樹

(5)

テ	ー	マ	肥前磁器の表情を多様に－その拵げ方－(1)				
期		日	平成17年2月23日				
概		要	波佐見地区を対象としてマイクロ波焼成など焼き物とテクノロジーの現状やボンチャイナの魅力とともに、釉薬や絵付け技法などの観点から肥前磁器の表情を多様にするための方法について講演。				
講		師	大西政太郎（大西釉薬研究所所長）				
受	講	者	26名	担	当	者	陶磁器科 久田松学

(6)

テ	ー	マ	肥前磁器の表情を多様にーその上げ方ー(2)				
期		日	平成17年2月24日				
概		要	三川内地区を対象としてマイクロ波焼成など焼き物とテクノロジーの現状やポーンチャイナの魅力とともに、釉薬や絵付け技法などの観点から肥前磁器の表情を多様にするための方法について講演。				
講		師	大西政太郎（大西釉薬研究所所長）				
受	講	者	9名	担	当	者	陶磁器科 久田松学

(7)

テ	ー	マ	天草陶土の性状について				
期		日	平成17年3月23日				
概		要	産地の中心的な陶土として用いられている天草陶土は、最近熱膨張係数が大きいなどの変化が見られる。また陶土の性質は組成、焼成、釉薬に大きく関係する。このため、化学分析、X線回折、熱膨張、曲げ強度、収縮率測定などの実験を行い、これらのデータに基づき天草陶土の性状について講習。				
講		師	大串邦男（窯業技術センター 陶磁器科長）				
受	講	者	70名	担	当	者	陶磁器科 兼石哲也

(8)

テ	ー	マ	「波佐見・三川内地域・陶磁器産業の革新を実現するために」その2				
期		日	平成17年1月20日				
概		要	陶磁器の革新のための方策として、①どのようにありたいか、②社会、国際的環境の変化をどのように受け止めているか、③何がやりたいか、④何がやれるか、⑤やり抜く意欲があるかなど革新のプロセス（戦略）について講演。				
講		師	井上元之（井上セラミックス研究所 所長）				
受	講	者	39名	担	当	者	陶器磁器科 矢野鉄也

(9)

テ　　マ	「波佐見・三川内地域・陶磁器産業の革新を実現するために」その3		
期　　日	平成17年3月2日		
概　　要	陶磁器の革新の方策として、①どのように具体化するか、②徹底的な実践、③結果評価とフィードバックはあるのかなど革新のプロセス（戦略、戦闘、戦果）について講演。		
講　　師	井上元之（井上セラミックス研究所 所長）		
受　講　者	19名	担　当　者	陶磁器科 矢野鉄也

(10)

テ　　マ	「ゼロ」を「1」に変えるには		
期　　日	平成17年3月11日		
概　　要	21世紀の企業成長に必要な基本的条件としての独自の事業の創出とその持続性、発展性の方策について講演。		
講　　師	高田紘一（高田技術事務所）		
受　講　者	28名	担　当　者	陶磁器科 矢野鉄也

(11)

テ　　マ	トータルライフスタイルで結ばれる作り手・売り手・そして使い手		
期　　日	平成16年4月8日		
概　　要	もの作り、物売りの基本は自らのライフスタイルにあるというトータルな視点での考え方について講演。		
講　　師	山田節子（㈱トゥイン代表・東京生活研究所ディレクター）		
受　講　者	40名	担　当　者	陶磁器科 兼石哲也

(12)

テ	ー	マ	大きく変化するインテリア・家庭用品の国内マーケットと流通				
期		日	平成16年12月2日				
概		要	現在の国内マーケットの状況、それに伴う流通の変化、グローバルな陶磁器業界の状況等をふまえ、今後の対応について講演。				
講		師	御手洗照子（㈱T-POT代表・産地プロデューサー）				
受	講	者	82名	担	当	者	研究開発科 山下行男

(13)

テ	ー	マ	コンピュータを利用したデザイン開発				
期		日	平成17年3月9日				
概		要	コンピュータでデザインをする際に欠かせないグラフィックソフト（フォトショップ及びイラストレータ）の基本操作の習得と応用演習を行った。				
講		師	齋藤裕（ポリテクセンター長崎）				
受	講	者	10名	担	当	者	研究開発科 桐山有司

1-3 技術普及促進事業

〔目的〕 無機系材料を活用した新事業・新産業の創出を図るため、県内各地に出向いて技術普及交流会（県内3ヶ所）を開催した。

期 日 ・ 場 所	<p>①長崎会場 （長崎県勤労福祉会館） 平成16年11月10日 ⑤島原会場 （島原商工会議所） 平成16年12月9日 ③佐世保会場（佐世保商工会議所） 平成17年1月19日</p>
内 容	<p>1. 窯業技術センター業務紹介（平成16年度業務全般について紹介） 2. 発表 2-1 技術シーズ発表 ①機能性材料関連〔テーマ：機能性超微粒子粉末の開発〕 （発表者：狩野伸自） ②環境関連〔テーマ：リサイクル資源活用によるリン除去技術〕 （発表者：阿部久雄） ③陶磁器関連〔テーマ：構造解折技術の応用〕（発表者：秋月俊彦） ④陶磁器関連〔テーマ：印刷技術による新加飾技術の開発〕 （発表者：兼石哲也） ※①、②は長崎、島原、佐世保会場で発表 ④は長崎会場で発表 ③は島原、佐世保会場で発表 2-2 試作品発表（展示紹介） ①機能性材料関連〔多孔体香りグッズ、触媒燃焼茶香炉、抗菌材、光触媒（超微粒子）等〕 ②環境関連〔人工植栽鉢、透水性リサイクルブロック、低温焼成軽量タイル、軽量装飾建材、リン除去材等〕 ③陶磁器関連〔エコタイル、美術館用透光性陶板、印刷技術による象嵌製品、蓄光タイル、有限要素法による衝撃強度の強い皿、福祉用食器、インクジェットプリンターによる絵付け製品等〕 3. 意見交換会 4. 個別相談会</p>
参 加 者	<p>①長崎会場 21名 （個別相談 3件） ②島原会場 17名 （個別相談 9件） ③佐世保会場 29名 （個別相談 9件） ※〔参加者合計 67名： 個別相談合計 21件〕</p>
担 当 者 （出席者）	<p>福村喜美子、山下行男、大串邦男、兼石哲也、阿部久雄、永石雅基、秋月俊彦、狩野伸自</p>

2. 学生実習（インターンシップ等）受入

(1)

実習生	佐世保工業高等専門学校 物質工学科 織田美晴
期 間	平成16年7月15日～7月28日
実習内容	①産業廃棄物の現状と有効利用法について ②産業廃棄物光触媒の合成方法について ③超音波を励起源とした産業廃棄物光触媒の有効利用法について ④機能性超微粒子の評価法について ⑤研修内容の発表と質疑
担 当 者	研究開発科 狩野伸自

(2)

実習生	県立長崎工業高等学校（40名）
期 間	平成16年11月24日
実習内容	セラミックス産業について講義及び開発品の見学等。
担 当 者	研究開発科 永石雅基

(3)

実習生	県立波佐見高等学校（154名）
期 間	平成16年12月17日
実習内容	陶磁器染付の加飾（素焼への下絵付け）実習及びセンターの見学等。
担 当 者	陶磁器科 小林孝幸、山口英次